

ARATA'S VOICE!

有楽町のストーン、梅田のマズラ、高知のオーブなど、純喫茶でありながら、クラシカルではなくむしろスペシな雰囲気を持ったカフェが全国には数多くある。しかし京都に素敵な純喫茶は多かれど、なぜかこれらに相当するようなイメージの店はないような気がする。あてもおかしくないのだが、そんな思いを込めて描いてみた。

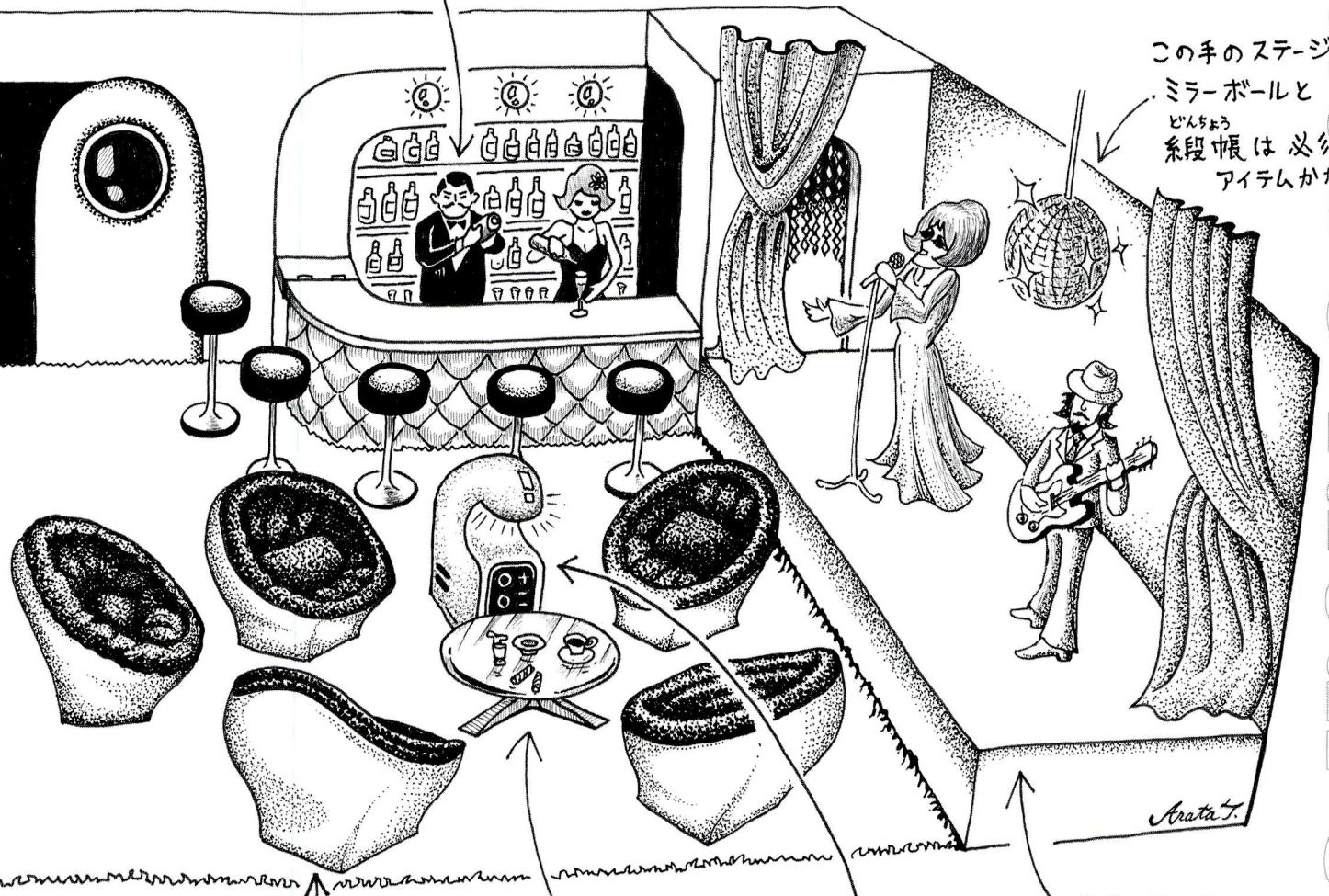
7ミ3分けに虫葉ネクタイ、渋いオヤジがシェーカーを振る。お酒も出したい。

cafe. Arata's ideal style.

今、僕はこんなカフェをつくりたい。
～谷本 新の理想カフェ～

「予算無制限・条件自由でカフェ描いて～(編集部)」「やりにくいです…。かといって条件をつけられると、むっちゃリアルでセコいカフェになるかもしれませんけど(笑) (あらた)」。思えば彼もエンジニア。編集部の適当なオファーに戸惑う谷本新さんを、なだめてすかして描いてもらいました。「開き直るとできるものですね(笑)。合理的な世の中、無尽蔵の架空予算を使って消費されないデザインを考えました。少し昔の、無駄のあるデザインというか、バカげてて、夢だけ追っかけてるような。これが僕の、理想のモダンカフェです。That's Arata's 哲学! できたら絶対、行ってしょう!!」

イラスト・文/谷本 新



この手のステージにミラーボールとピンチよう系段帳は必須のアイテムかなど。

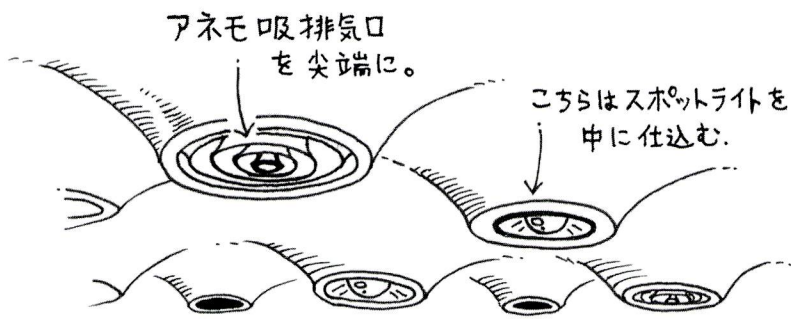
これだけ北欧ブームが続いているにもかかわらず、いまだ「ほとんど」知られていないOVERMAN社のアポロ。持っている人がいたら譲ってほしい!! リーガロイヤルの天望ラウンジな気分で。

70s 純喫茶の定番茶色のスモークガラステーブル。ハマキが似合う。

ステージでは大西ユカリや渚ようこが夜な夜な熱いライブを繰り広げる。

かつて70年代に京都河原町の某ホテルの客室で使われていたというFRP一体成形のライト内蔵型コンソールテーブル。今はどこに!?

天井はこんな感じ ⇨
 こういう凸凹のある造形の
 天井って、最近はずっかり
 見かけなくなりましたね。



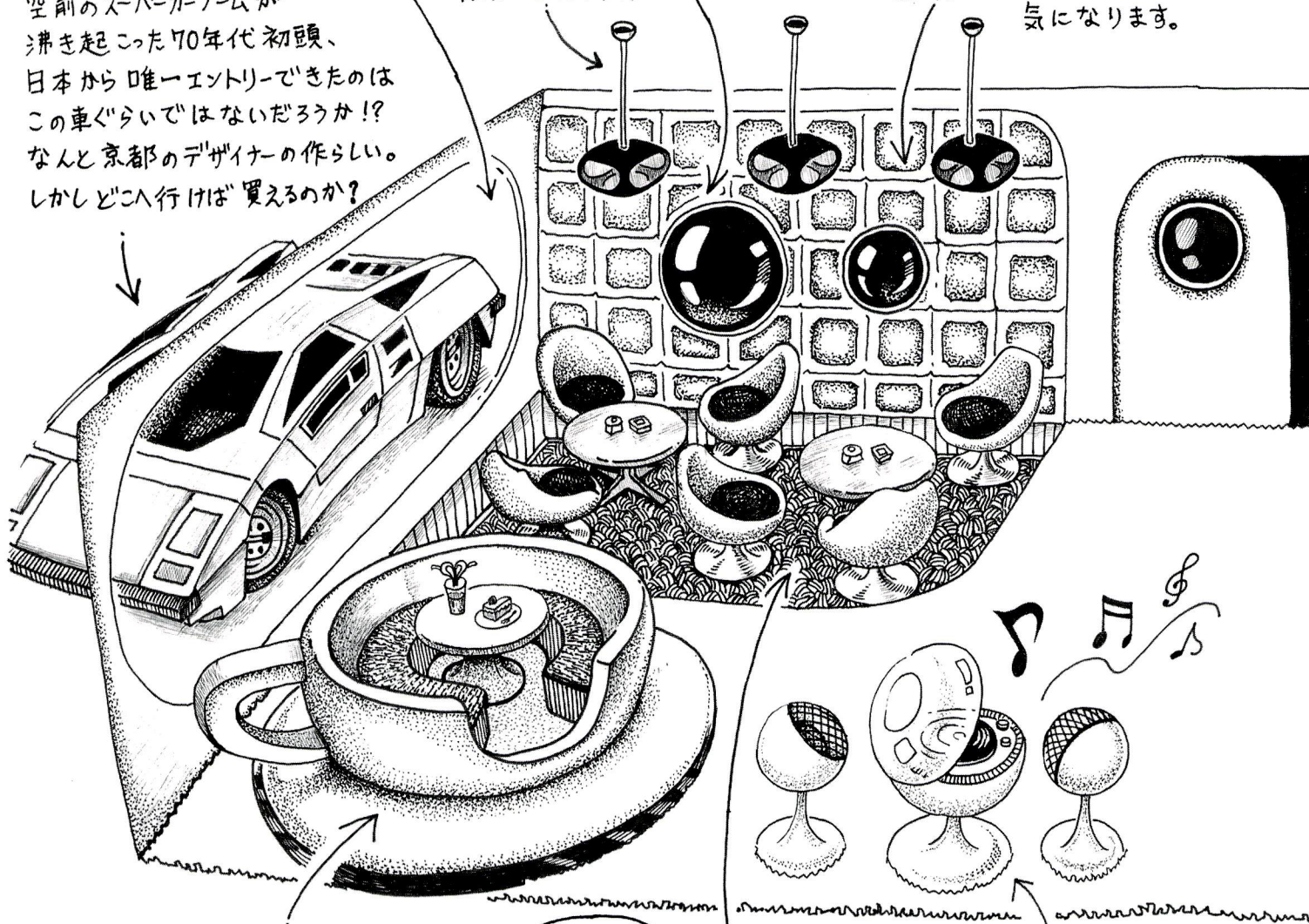
本誌でも以前に取り上げた
 長岡京に今も残るUFO住宅
 VENTURO。マッティ・スローネンによる
 宇宙的な窓のデザインを取り入れる。「青年の城」の窓をイメージ。

滋賀県は近江八幡にある中島龍彦と
 上田篤によって作られた伝説のカプセルタワー

六曜舎の壁にあるような
 重厚なタイルを壁一面に。
 近頃レトロなタイル壁が
 気になります。

窓の外には童夢零をディスプレイ!
 空前のスーパーカーが
 沸き起こった70年代初頭、
 日本から唯一エントリーできたのは
 この車ぐらいではないだろうか!?
 なんと京都のデザイナーの作らしい。
 しかしどこへ行けば買えるのか?

VENTUROの形に
 似たペンダントライト



その昔、遊園地デートの定番だった
 コーヒーカップを客席として使用。
 古い遊園地が廃業したと
 貰い受けて、これはマジで実現
 したい!

この席にはハート型ストローがよく似合う!?
 もちろんカップルではなくアバック!!



かってモダンリビングの定番だった
 ジャギー & スキップフロアの組合せ。
 椅子とテーブルは京都国際会館
 のロビーのイメージで。